

第4回 札幌市生涯学習推進検討会議 概要録

1 会議次第

- (1) 報告事項 第3次札幌市生涯学習推進構想について
- (2) 意見交換 第3次札幌市生涯学習推進構想の実現に向けて
- (3) その他

2 日時

平成29年(2017年)3月21日(火) 9時30分～11時

3 場所

札幌市教育委員会4階 委員会会議室

4 出席者

(1) 委員(9名)

石井委員、臼井委員、喜多委員、木村委員、佐久間委員、佐々木委員、竹川委員、三上委員、三坂委員

(2) 事務局(6名)

山根生涯学習部長、大場生涯学習推進課長、近藤生涯学習係長、齋藤社会教育主事、佐藤社会教育主事、永山社会教育主事

5 開催形態

公開(傍聴者なし)

6 主な議事の内容

(1) 報告事項 第3次札幌市生涯学習推進構想について

○資料1について事務局(近藤係長)より説明があった。その後、質疑応答の時間を設けた。

- ・「オリンピック・パラリンピック教育」とは。(佐々木委員)

→2020年の東京オリンピック開催に向け、国としても推進している取組で、オリンピック・パラリンピックの価値を人々に理解してもらうための学びであり、スポーツを基盤とした平和で多様性を認め合う社会の構築につながるもの。第3次札幌市生涯学習推進構想(以下、「3次構想」という。)では「施策の展開6 スポーツ・健康に関する学びの充実」等に記載している。(近藤係長)

(2) 意見交換 第3次札幌市生涯学習推進構想の実現に向けて

- ・P36で成果指標として「現在の学習や活動の環境に満足している人々の割合」

が設定されているが、熱心に学ぶ人ほど、向上心が生まれ、現状に満足しなくなるという視点も忘れてはいけない。（臼井委員）

- ・パブリックコメントの結果、社会全体で子育てを支える視点が加筆されて良かった。当初「施策の展開1 乳幼児期からの育ちを支える学びの充実」の事業の例にある「子育てボランティアの育成など、子育てを支援するための学びの充実」に対応する記述が本文になく、気になっていた。（喜多委員）
 - ・P49 のパブリックコメント手続「2 意見の内訳」で、若者の意見の少なさが気になった。SNSなどを活用して若者から意見を集めたり、若者へ情報を発信したりする必要性を感じた。（佐久間議長）
 - ・学びの場を運営する側だけが3次構想を理解するのではなく、市民が日々生活する中で、このような構想を持ったまちに暮らしているという意識を持てるような工夫が必要。市民にどのように3次構想の内容を伝えていこうとしているのか。（三坂委員）
- 3次構想の冊子配布に加え、市民普及版の概要版の配布を考えている。行政には生涯学習の考え方や、3次構想の内容を市民にわかりやすく伝える責任がある。生涯学習施策の地域展開を進める中で、構想の内容についても浸透させていきたい。（近藤係長）
- ・地域で活動する際に構想の内容を理解していた方が良いというのはもちろんだが、市民に直接浸透させることには難しさがある。区役所やまちづくりセンターが学びの場を企画・運営する際に、この概念がじわじわと伝わっていくような仕組みや仕掛けが必要。（三坂委員）
- 広報さっぽろ等の身近な広報媒体で市民に構想の内容を伝えられるのが理想的だが、市政情報が溢れている中で、広報さっぽろで3次構想の全てを伝えるのは難しい。しかし、広報さっぽろ3月号でご近所先生企画講座が取り上げられたように、3次構想のパーツを市民に伝えられるような工夫をしながら、生涯学習の考え方を市民に広げていきたい。（大場課長）
- ・市政世論調査で「自宅で学んでいる人が6割」という結果が出ている一方で、「いろいろな人たちが集まって交流できるたまり場」が必要な施策としてあがっている。改めて生涯学習をしたいと思う人々の集まる場をつくるのが大切と感じた。（石井委員）
 - ・「自宅でインターネットを活用して学び、月に1回実際に集まる」といったような、インターネットを活用した学びのツールがあれば、日中働いている世代

も、時間がない中で学ぶことができる。（石井委員）

- ・人が何かに参加したり、何かをやろうとした時に「Wow」という喜びや発見があるところに、生涯学習の本質がある。自分からおもしろくしていこうという人々の意識を醸成していくことが、これからの社会で大切なこと。（臼井委員）
- ・P3にある「共に支え合いながら生きていくという『共生』の思いを併せ持つこと」が重要。今の社会は「子育て中の方」「高齢者」「障がい者」などといったように分断され、交流の場がないと感じる。生涯学習を支援する際には、一人一人の学びだけでなく、お互いが見える場をつくるという視点も大切。例えば福岡には、小学校の空き教室で障がい者と子ども、地域の人々が交流する取組がある。交流の場を通じて、お互いを本当に身近に感じることができ、学びにつながっていくような場所や仕掛けができれば良い。（喜多委員）
- ・今までの協議の中で、生涯学習の「強制的でない」という側面を強く感じた。行政が学習環境を整備することは、自発的に学びたいという意識を持っている方々を支えることになる。一方で、学びたいという意識を掘り起こすことに対しては、改めて難しさを感じた。今後どのように掘り起こしていくかが非常に重要。（木村委員）
- ・3次構想の内容は幅広いので、それぞれの部署がリーダーシップを持ちながら構想の理念を実現していくことが重要。学校・まちづくりセンター・地域など、パーツパーツで取り組んでほしい。また、「図書館と連携した生涯学習推進体制の検討」が重点施策として書かれているが、地区図書館を含めて取り組んでいくべき。（木村委員）
- ・生涯学習のたまり場、広場機能が身近な場に必要。「何かを学びたい」という受動的な意識で集まった人々が、体験を積むことで能動的になって、人材として広く活躍していけるような機能が働くと、学びの場がどんどん広がっていく。この仕掛けをどうつくるかが、3次構想を浸透させていく際のポイント。図書館は一般的に「調べものをする場所」と認識されているが、実は地域のたまり場だということを市民に知ってもらい、その広場機能を人々が理解して能動的に活躍できるようになることで、「自立した札幌人」が増えていくのではないか。（三坂委員）
- ・生涯学習を進める上での問題点がどんどん拡散していると感じている。結局、この問題は、「欲しい、欲しい」と、受動的な、受け身の人々が声を出してい

ることに起因しているのだと、三坂委員の発言を聞いて感じた。「生涯学習によって人々はどうあるべきか」に気付いていくことへのアプローチは非常に難しい。しかし、文部科学省が教育振興基本計画で示している基本的方向性を推進していくことがアプローチの一つと言える。3次構想を進めるに当たっては、構想を自分に関係のあることとして人々に自覚してもらい、世代としてどうあるべきかを考えるようになることが必要。(竹川委員)

- ・中間年で市民アンケートを実施する際に、「生涯学習をしたいけれどもできない人」や、学習できない理由を「わからない」と答えた人のことを分析してほしい。「エデュケーション・バイ・エデュケーション」という言葉があるが、「教育を受けたものが、さらに次の教育を受けることにつながっていく」一方で「教育を受けなかった者は、次の教育を受けようとする意志につながらない」ということに、大きな問題意識を持っている。学習することに縁遠くなっている人々に対し、「学習すること」をどのように投げかけていくのが重要。中間年の構想見直しの際に、念頭に置いてほしい。(佐々木委員)
- ・22個の施策の展開項目が挙げられているが、それぞれの項目が連携していくことが大事。施策や事業はそれぞれ目的を持ち、予算のもとで動いていくものだが、生涯学習社会を実現するという目的のもとで、それぞれの施策が縦割りに陥ることなく連携してほしい。例えば、基本施策Ⅰの重点施策はまちづくりや経済活動に生かせる学びという要素がポイントだが、基本施策Ⅱの重点施策で強調される「学校」という場が、その学びを生かす場になり得るという関係がある。基本施策Ⅰの「学びを生かす」ための場について考えたときに、基本施策Ⅲの重点施策で示される図書館も新しい学びをつくる場となり得る。(三上副議長)
- ・基本施策Ⅲの重点施策にある「全市的な生涯学習推進体制の再構築を検討」という部分が印象的。生涯学習センターと図書館の連携についても書かれており、図書館が生涯学習施設として、本当の意味での学びの場として更新されていく趣旨と捉えた。単に市役所の中だけでなく、全市民的な議論をしていくような印象を受けた。そのような学びの場ができていくことが、重点施策Ⅰにつながり、本当の意味で学びがまちづくりや経済活動に生かされることになる。(三上副議長)
- ・P36には大学等高等教育機関との連携についても書かれているので、大学に持ち帰り、折に触れて紹介していきたい。(三上副議長)

- ・ 3次構想をどのように実行していくかが重要。生涯学習支援行政を進めるにあたり、市民に対する期待を発信していくことが大切。出前講座などを活用して3次構想を説明し、市民への期待や、行政の思いを伝えてほしい。（佐久間議長）
- ・ パブリックコメントとして寄せられた意見で、構想内容に修正を加えなかったものについても、今後施策を進める上で参考にするべき。意見を寄せてくださった市民は、札幌市の生涯学習の応援団。（佐久間議長）
- ・ P36の推進体制として連携に関することが書かれているが、生涯学習を推進するにあたり、部局間が連携する「ネットワーク行政」が重要。首長部局での取組と教育委員会の取組が連携し、縦割り行政を打破してほしい。そのためには構想改定時だけでなく、普段から生涯学習総合推進本部を機能させることが大切。（佐久間議長）

(3) その他

- ・ 今回会議は最終回であるため、生涯学習部長から謝辞があった。